

アンケート調査に基づくインプラント治療のエビデンスについて

-その2 心理テスト診断-



P-44

Evidence of the Implant Treatment Based on the Questionnaire Survey -Part 2 Psychology Test Diagnosis-

井上一彦^{1,2,3,4)}, 三浦宏子¹⁾, 寺山雄三⁴⁾, 木村たき子⁵⁾, 今井 奨²⁾, 花田信弘²⁾

¹⁾ 国立保健医療科学院 口腔保健部, ²⁾ 鶴見大学歯学部探索歯学講座, ³⁾ 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 インプラント・口腔再生医学, ⁴⁾ 総合インプラント研究センター, ⁵⁾ 東洋学園大学人文学部

I 要旨

インプラント治療を行った患者に関して満足度調査ならびに楽観性テストとストレス耐性テストを実施し、これらの結果とインプラント予後関連項目の関連性について統計学的に検討した。その結果、インプラントの術後状況に関係なくインプラント治療に関しておおむね満足している傾向が示唆された。また、インプラント治療を実施した患者は忍耐強い傾向が観察された。

II 目的

インプラント手術は大きな外科的侵襲を伴うため、患者は非常にストレスを感じていることが推測される。インプラント治療を安全に実施するためには、患者の性格を勘案し、満足度にも配慮する必要がある。そこで、本研究では、インプラント治療後の患者満足度を調べるとともに、そのパーソナリティ（楽観性、ストレス耐性）についても調査し、治療後の臨床所見と満足度との関連性についても明らかにした。

III 材料および方法

1994年から2009年にかけてI歯科クリニック（埼玉県）およびO歯科医院（東京都）にてインプラント治療を行った226人のうち、アンケートの回収が得られた147人（年齢63±9歳、男性47名、女性100名、回収率65%）について調査した。インプラント術後の臨床所見の評価については、第1報と同様の手法を用いた。また、患者満足度調査については「清掃性」、「維持力」、「安定性」、「快適さ」、「咀嚼機能」、「食物選択」、「装着感」、「価格」、「総合評価」の9項目について5段階評価を行った。また、対象者のパーソナリティについては、楽観性テストとストレス耐性テストについて評価を行い¹⁾（表1、2）、インプラントの術後状況との関連性について、ウィルコクソンの順位和検定を用いて調べた。

図1 インプラント治療の患者満足度調査(n=147)

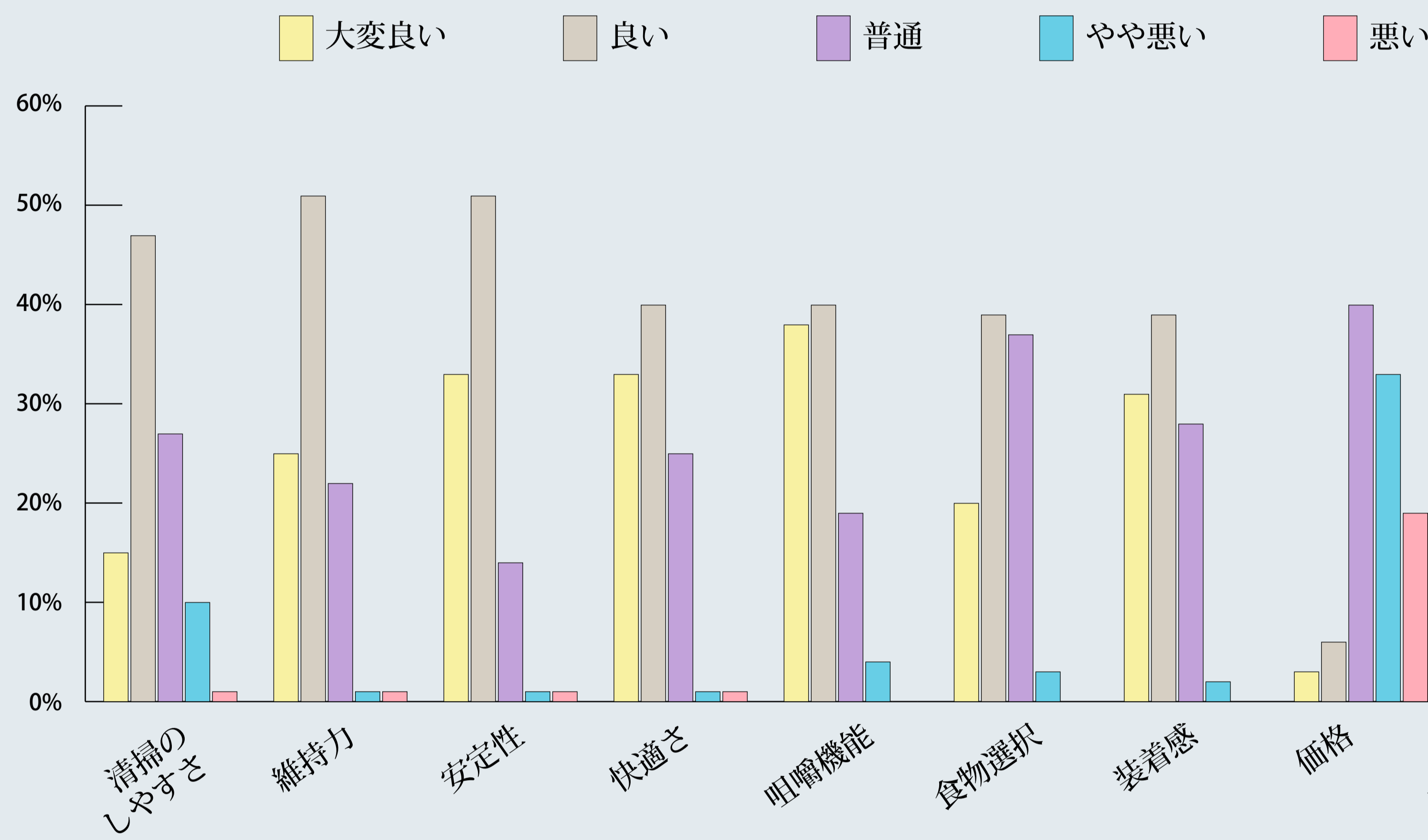
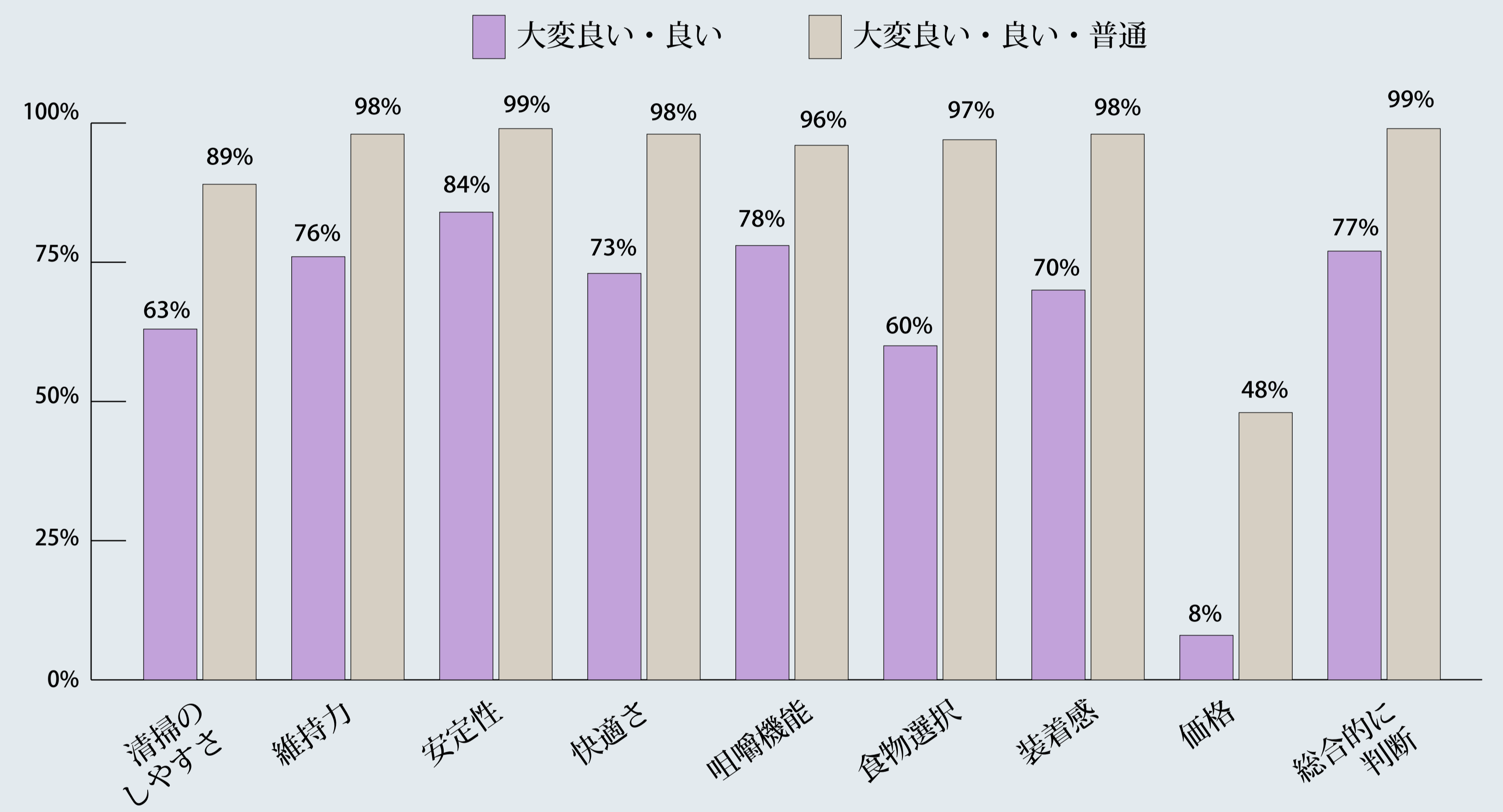


図2 インプラント治療の満足度調査上位カテゴリーの割合(n=147)



IV 結果および考察

患者満足度において、総合的に「よい」(51%)もしくは「大変良い」(26%)と回答した者の割合は合計77%であった。また、特に「安定性」については84%の者が満足していた。一方、価格に関しては「やや悪い」の割合が33%であった(図1,2)。一方、楽観性テスト（最高40点、基準値20点、表1）の平均値は16.7±6.5点であり、特に高い値は示さなかったが、ストレス耐性テスト（50点以上：ストレス耐性が高い、40点以下：ストレス耐性が低い、表2）については57.1±7.4点であり、耐性力は高い傾向がみられた。楽観性はストレスに影響をあたえていると報告されているので²⁾、インフォームド・コンセントの確実な実施がインプラント手術患者の心理的ストレスを軽減することになる。今後、医療面接プロトコルの確実な整備のもと、被験者を増やしてデータを取得することが重要と思われる。また、患者満足度とインプラント術後の臨床所見(骨吸収、ペリオテスト値、インプラント脱落数)との間には、有意な相関性がみられなかった(表3)。このことは予後の状況が的確に患者さんに伝わっていないことを示し、術前ばかりでなく術後状況の患者への説明の必要性が示唆された。

表1 楽観性テスト

1. 一度決めたことでも、他人の意見ですぐ変わってしまう	はい	いいえ
2. 人生について重荷を感じている		
3. 自信がないために、ものごとをあきらめてしまうことがよくある		
4. 自分はまったく役に立たない人間だと思うことが多い		
5. 自分の無力さを切実に感じるが多い		
6. 危険や困難にぶつかるとしりごみをしてしまう		
7. 答案や手紙を出した後、書き落としがあったのではないかと心配しがちである		
8. 決心するのにいつも時間がかかる		
9. 困難が重なってきて耐えられなくなることがよくある		
10. すくまごついてしまう		
11. 物事はなるようになるものだ(ケ・セラ・セラだ)		
12. 子どものころから明るい性格だった		
13. 今まで、とにかく運に恵まれてきたと思う		
14. バカバカしいお笑いでも嫌いではない		
15. ひとりぼっちでいるのは、あまり好きではない		
16. 大災害が起こっても自分や自分の家族は大丈夫だと思う		
17. 知的に優れていても人間関係がダメな人はダメ人間だと思う		
18. 不景気は雨みたい、今までやまない雨はないのだ		
19. 夕方は明日への希望で元氣いっぱいである		
20. 私はまじめだが、わりにのんきなほうである		

表2 ストレス耐性テスト

	めったにない	たまに	しばしば	いつも
1. 冷静な判断ができる	1	2	3	4
2. 陽気である	1	2	3	4
3. 自分の考えを表現する	1	2	3	4
4. 喜びにあふれている	1	2	3	4
5. 他人の喜びを重視する	4	3	2	1
6. プラス思考(良いほうに考える)	1	2	3	4
7. 他人をねたむ	4	3	2	1
8. 行動的だ	1	2	3	4
9. 他人を非難する	4	3	2	1
10. 他人のいいところを見つける	1	2	3	4
11. 柔軟性がある	1	2	3	4
12. 手紙にすぐ返事を書く	1	2	3	4
13. 気さくだ	1	2	3	4
14. 真実に立ち向かう	1	2	3	4
15. 思慮深い	1	2	3	4
16. ものごとに感謝する	1	2	3	4
17. 多くの友達がいる	1	2	3	4
18. 家庭不和	4	3	2	1
19. 仕事がつらい	4	3	2	1
20. 趣味を持っている	1	2	3	4

表3 インプラント異常有無間でのウィルコクソン検定

変数	カテゴリ	n	平均順位和	検定	
				p値	判定
清掃のしやすさ	異常あり	27	75.92	0.668	
	異常なし	118	72.33		
維持力	異常あり	25	69.76	0.851	
	異常なし	116	71.27		
安定性	異常あり	27	74.41	0.891	
	異常なし	119	73.29		
快適さ	異常あり	26	72.12	0.956	
	異常なし	118	72.58		
咀嚼機能	異常あり	27	76.06	0.708	
	異常なし	119	72.92		
食物選択	異常あり	26	63.44	0.267	
	異常なし	115	72.71		
装着感	異常あり	27	70.09	0.723	
	異常なし	117	73.06		
価格	異常あり	26	69.94	0.479	
	異常なし	104	65.39		
総合的に判断して	異常あり	25	76.38	0.571	
	異常なし	119	71.68		

V 結論

本調査での対象者であるインプラント装着者においては、術後もおおむね満足している傾向が示されるとともに、忍耐強い傾向が観察された。また、インプラントの脱落や、インプラント周囲に骨吸収や動揺度で問題があった場合でも、満足度にはあまり影響を及ぼさない傾向があることが示唆された。術後患者への説明の重要性が示唆される。

VI 文献

- 1) 岡堂哲雄：心理テスト入門，日本評論社，1993。
- 2) 小林正幸，豊田幸恵，沢松容子：楽観性が心理的ストレスに与える影響について，東京学芸大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要 第26集 pp.87-100, 2002。